

福井大学協定校への派遣留学（交換留学）月例報告書（8月分）

留学先大学：タイ・アサンプション大学

氏名：板谷 月紀

サワディーカー！国際地域学部3年の板谷月紀です。8月からタイのアサンプション大学で、一学期間の交換留学をしています。アサンプション大学へは福井大学から一人で留学に来ているわけですが、実はこの半年間の留学、私にとって初の海外渡航でした。ビザや航空券の取り方、スマホはどうするのか、通貨の両替はいつするのか、何を持っていくべきか、右も左も分からず追われるように準備していたら、いつの間にか出国の日が来ていました。留学で一番大変なのは、海外での生活よりも、大量の書類提出を含めた準備期間ではないでしょうか（笑）さて、そんな不安だらけの留学生在活が幕を開けたわけですが、まずは皆さんにタイという国をご紹介します。

タイってどんな国？

タイという国は、日本人にとってはどちらかというと有名な国ですよね。出国前、「タイに留学に行く」と言うと、「え、大丈夫？発展途上だよね」というようなコメントがとんでくることも少なくありませんでした。実際、私もそのようなイメージを少なからず持っていましたが、いざバンコクに着いてみると、福井より遥かに都会…。バンコクはタイの首都で、日本でいう東京の渋谷や原宿のような位置づけだそうです。日本人観光客も多く、そこら中で日本語が聞こえてきます。最初のうちは、そんな大都会の景色に圧倒されていましたが、よくよく見てみると、近代的な建物の足元に薄汚れた屋台がズラリと並んでいたり、野良犬がそこら中でお昼寝していたり、道端で裸足のおじさんが寝ていたり……。なんというか、日本の昭和と平成が共存しているような、そんな空間（笑）もちろんバンコクから少し足を延ばすと、ビルは無くなり、道も凸凹で、荒地や畑などの田舎っぽい景色が広がっています。個人的には、屋台や涼しそうな平屋がぼつぼつとたたずむ田舎の方が、日本にはない景色なので見ていて面白いです。

タイ人ってどんな人たち？

もちろん、タイ人はこう！と一概に言うことはできませんが、一か月間過ごしてきた、日本人にはない感覚だな…と思ったことや、興味深いと感じた点がたくさんあったので、その中から少しだけご紹介したいと思います。

1. 笑顔が可愛い！

タイの人達は、最初は不愛想で少し怖く見えることもありますが、こちらがほほ笑むと、とても可愛くニコリ笑ってくれます。特におばちゃん達。私が仲良くなった、学内のレストランで働いているおばちゃんが今のところ優勝です。

2. めちゃめちゃ優しい！

タイの人たちはとてもやさしくて、面倒見がいいです。初対面でも「なんでも助けてあげるから困ったことがあったら言ってね」と声をかけてくれます。アサンプション大学にはチューター制度がありませんが、身の回りで問題が起こった時など、未だに困ったことはありません。

3. 時間を気にしない！

タイ人はとてもゆっくり歩きます。もちろん全員ではありませんが、授業に遅刻しそうな時間でも走っている生徒を見たことはありませんし、20人中15人くらいの生徒が授業に遅刻してくる勢いです。遅刻魔の私にはとても有難いです。

アサンプション大学ってどんな大学？

最後に、アサンプション大学についてご紹介します。小中高すべて国公立で過ごしてきた私にとっては信じられないほど豪華な設備がここにはあります。カトリックの立派な校舎と寮、白鳥の棲む池、レストランモール、教会、屋外のバスケットコート、テニスコート、プール、ジム、卓球場、ビリヤード場まで…。セブンイレブンは2つもあります。留学生だけでなく正規の学生としても多くの外国人が在学していて、まさに多文化共生の場といえます。

授業とテストについて

授業は90分間で、一限は9時から始まりますが、なんと授業間の休み時間も昼休みもありません。学生は空いている時間で各々昼食を取ります。授業形式は福井大学とほぼ同じで、先生がスライドと黒板を使って講義し、たまにディスカッションやプレゼンなどの課題が出ます。テスト期間は中間・期末の2回で、2週間～3週間で費やします。中間テストは各2時間、期末は3時間もあるそうです。

日本人にとって一番の衝撃は、学生全員が英語を話せること。工学部でも人文学部でも音楽学部でも、全員がペラペラです。このような環境の中で、やはり自分の英語力の低さに日々悔しさを感じてしまいますが、語学向上の絶好の機会なので精一杯食らいついていきたいです。

(↓左から、学内の教会・メインストリート・レストランモールで食事)

